



平成 28 年 2 月 2 日

各 位

会 社 名 株式会社プロルート丸光
代表者名 代表取締役社長 安田 康一
(JASDAQ・コード：8256)
問合せ先 執行役員管理本部長 森本 裕文
(TEL 06-6262-0303)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 27 年 4 月 30 日に公表した通期業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 平成 28 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 27 年 3 月 21 日～平成 28 年 3 月 20 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回発表予想(A)	百万円 13,890	百万円 200	百万円 65	百万円 55	円 銭 2.81
今回修正予想(B)	11,580	△360	△500	△510	△25.14
増減額(B-A)	△2,310	△560	△565	△565	
増減率(%)	△16.6	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 27 年 3 月期)	13,638	△123	△253	△228	△12.44

(2) 平成 28 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正 (平成 27 年 3 月 21 日～平成 28 年 3 月 20 日)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回発表予想(A)	百万円 13,720	百万円 65	百万円 55	円 銭 2.81
今回修正予想(B)	11,450	△480	△525	△25.88
増減額(B-A)	△2,270	△545	△580	
増減率(%)	△16.5	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 27 年 3 月期)	13,433	△259	△221	△12.06

2. 修正の理由

(1) <連結業績>

主力の卸売事業におきましては、発注計画の見直し、シーズン在庫管理、滞留在庫の早期削減等のマーケティング機能強化を徹底したことにより、粗利益率の改善については一定の効果が現れました。販売面においては、言語変換機能を付加した当社独自の SNS アプリを開発し、国内外へタイムリーな情報を発信し販促強化を図ってまいりました。特に台湾、香港を中心とする海外顧客売上に関しては、外国語に堪能なスタッフの増強や上記アプリの効果により、第 3 四半期連結累計期間においては、前年比

112.6%と好調に推移しました。しかしながら、全国的な暖冬の影響により、冬物商品の売れ行きが大きく低迷したことから、損益面において通期当初計画を下回る見通しであります。

今期より開始した免税事業におきましては、中国現地旅行社と直接提携することによって、旅程に当社丸屋免税店での買物を組入れたツアーを企画し、団体バスでの集客を目論んでいましたが、実際に送客を行う国内の旅行運営会社との間に様々な障壁があり、当初の集客計画より大きく乖離した状況となりました。これらを解決するため、現在、国内旅行社との交渉や個人旅行者の集客の拡大に向けて広報活動および商品構成の見直しを行っておりますが、当期への効果に関しては限定的であり、第4四半期連結会計期間の売上についても保守的に判断せざるを得なく、通期において売上高46百万円、営業損失150百万円と当初計画を大幅に下回る見通しであります。

連結子会社であります株式会社サンマールが営む小売事業におきましては、メンズショップ「ケントハウス」ブランドの国産オリジナルスーツ、ジャケット等が人気を博し、併せて、イージーオーダーの拡充により既存店舗においては昨年を大きく上回る売上高を計上しております。その他、国内百貨店催事への参加や有名芸能人への衣装提供により、ブランド知名度の向上を図るとともに、中国国内ホテルインショップ向け販売等の海外商談を進め、販路拡大に取り組んでおりますが、依然改革途上であり、当期黒字化の見通しには至っておりません。

また、免税事業の発足とともに株式会社道紀忠華シンクタンクと業務提携したことにより、中国市政府や中国企業とのコネクションが生まれ、昨年9月23日から25日にかけて、中国山東省濰坊市で開催された「第1回中日韓産業博覧会」に出展した際には、当社が取扱う日本製商品に大きな注目が集まりました。現在、済南市をはじめ、青島市、即墨市、天津市の中国市政府および中国企業と多くの商談機会を設け、既存取引先の協力を得ながら、中国保税区活用やクロスボーダー電子商取引等により中国本土への商品供給を行うことでの販路拡大について、当社グループ全体で取り組んでおりますが、昨年9月にプレオープン予定であった中国保税区現地展示場のインフラ整備の遅れや通関業務等の課題があり、業績への寄与は次期以降になる見通しであります。

以上の理由により、通期連結業績予想を上記のとおり修正いたします。

(2) <個別業績>

連結業績予想数値と同様の修正理由であります。

※上記の業績予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により記載の予想数値と異なる可能性があります。

3. 業績改善に対する取組状況と今後の見通し

卸売事業におきましては、引続きマーチャンダイジング機能強化等の粗利益率改善策を推し進めるとともに、不採算部門の圧縮による売場再編成、新規顧客開拓や海外顧客サービスの充実、日用雑貨等の新規取り扱い商品の拡充、トータルファッションを提案するオリジナルブランドの開発やEC事業の本格稼働を進めるとともに、物流経費を中心としたコスト構造改革に着手し、収益力拡大に取り組んでまいります。

免税事業におきましては、集客力の増強や店頭販売力の強化につきまして、業務提携先である株式会社道紀忠華シンクタンクとともに国内外の旅行社やバス運営会社と協議を進めております。また、平成28年3月1日より運行予定であるループバス、「大阪ワンダーループ」の誕生にともない、ルートマップのバス停留所のひとつとして「堺筋本町丸屋免税店前」が設けられることとなりました。これを契機に、さらなる個人旅行者の集客拡大に向けて、良質な日本製商品を中心とした独自性のある売場づくりや、宿泊施設・空港施設・観光施設での広報活動強化およびSNSでのプロモーション活動に注力してまいります。

さらに、済南総合保税区と株式会社道紀忠華シンクタンクとの出資により設立された「済南総合保税区丸光商貿有限公司」やその他中国保税区内企業への商品供給およびクロスボーダー電子商取引等により、中国国内に高品質な日本製商品を安価かつスピーディーに配送する貿易モデルを早急に構築できるよう当該事業専門部署を新設し、株式会社道紀忠華シンクタンクの協力のもと、中国市政府や現地企業との交渉を加速させ、当社グループ全体として販路拡大を図ってまいります。

上記の施策を含め、次期以降の経営計画については現在策定中であり、公表できる段階になり次第速やかにお知らせいたします。

以 上